

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2006～2009

課題番号：18520259

研究課題名（和文）タミル古代の英雄文学の再検討

研究課題名（英文）Reconsideration of Heroic Poetry of Ancient Tamil

研究代表者 高橋 孝信

（東京大学・大学院人文社会系研究科・教授）

研究者番号：10236292

研究成果の概要（和文）：タミル古代英雄詩の 60 余編を翻訳を上梓、それにより下訳（直訳）と翻訳との間にある解釈こそが、研究の差異をもたらすことが分かった。また、その解釈に際し、原典の精読は不可欠であるが、博物学的知識が重要であることもわかった。それらすべての上に、作者情報や奥書の信憑性の問題にも一定の仮説を立てられた。

研究成果の概要（英文）：During this period, I translated 62 heroic poems from PuRanaanuuRu and published them. Through this work, I have known that the interpretation between literal translation and final readable one is most important for scholars, and it is indispensable for it not only intensive reading of texts but encyclopedic knowledge. Only afterwards we could attain the problem of the authenticity of authorship and colophons, and actually I have developed some hypotheses about them.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	1,000,000	0	1,000,000
2007 年度	800,000	240,000	1,040,000
2008 年度	900,000	270,000	1,170,000
2009 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総計	3,400,000	720,000	4,120,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：その他の外国語、インド、タミル、古典、英雄文学

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 特定領域研究(A) (2) 「タミル古典の文献・写本・電子ファイルに関する情報および現物の収集」(平成11～14年)、基盤研究(C) (一般) 「タミル最古の文典『トルハーッピーヤム』詩論部分の訳注研究」(平成15～17年) 等で、当該研究の下準備が進んでいた。

(2) すなわち、当該研究に必要な電子ファイ

ルを入手済みであり、また、古典文学の背景をなしている詩論については、それなりの研究が進んでいた。

## 2. 研究の目的

(1) 筆者のライフワークは、タミル古代文学（紀元前後～後3世紀）の総合的理解、及びそれをもとにした古代の文化・社会の理解であ

る。タミル古代文学は、過去百年にわたって様々な角度から研究されてきたが、それらの研究には大きな問題がある。それは、(a) 現存最古(紀元前後～後5世紀)の詩論『トルハーピヤム』を古代文学の規範書と考え、その記述を基に文学解釈を行ってきたこと、(b) テーマや作者名を記した、奥書の記述を鵜呑みにして作品解釈をしてきたことである。

(2) そこで本研究では、古代文学の二大ジャンル(恋愛文学と英雄文学)のうちの英雄文学に焦点を絞り、従来の伝統的な研究方法を排し(詩論及び奥書の記述を一旦無視し)、英雄文学を再検討することを目的とする。

### 3. 研究の方法

上でも触れたように、詩論や奥書の記述を一旦考察から排除し、英雄文学そのものだけを丹念に読み、改めて奥書の記述等の適不適を考察し、最終的にそれらも踏まえて作品が真に意味するところを考察する。それによって、伝統的な読み方からさらに一歩踏み込んだ理解を得るようにする。

### 4. 研究成果

① 2007年の著書において、60余の英雄詩の翻訳を上梓した。この体験から、直訳または下訳(研究論文に使う訳)と翻訳とでは全く性格が異なり、直訳と翻訳の間に解釈が必要で、それが作品理解の違いを生んでいることが分かった。

② 原典読みは基本で、それにより文体や表現の微妙な差が分かり、作者の仮託が疑われる例も分かった。

③ 英雄詞華集『英雄詩四百』の成立について、今まで以上に明確な仮説を立てられるに至った。

④ 本研究で当初は取り上げるつもりがなかったもう一つの英雄詞華集『十の十』を、フランス極東学院で教える機会があり、作者の仮託はますます確かなものになった。このことは、すなわち作品の奥書の信憑性を疑わせることになる。

⑤ 古代社会の様子(衣食住など)は、恋愛文学より英雄文学で質量ともによく描かれている。しかし、反面、例えば料理名だけ出て、実態が分からないことも多々あり、これらの解明は、本年度からの基盤研究(C)「タミル古代の詞華集『十の長詩』の批判的研究」に引き継がれることになる。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

① 高橋孝信、「「耕す」とは「殺す」こと? —タミル文化とジャイナ教の伝播—」、『印度哲学仏教学』第23号、北海道印度哲学仏教学会、2008、276-294頁。

② 高橋孝信、「ブラムは「雑歌」か—タミル古代文学のジャンル分け—」、『万葉古代学研究所年報』第6号、万葉古代学研究所、檀原、2008.3、215-228頁。

③ 高橋孝信、「文法以前—古典テキスト解釈の諸問題—」、『インド哲学仏教学研究』第13号、東京大学大学院人文社会系研究科・文学部・インド哲学仏教学研究室、2006年3月、73-86頁。

[学会発表](計3件)

① T. Takahashi, “Jain Authorship in Tamil Literature: Reassessment”, 14th World Sanskrit Conference, Kyoto, Sep. 2, 2009.

② T. Takahashi, “Is Clearing or Plowing Equal to Killing?: Tamil culture and the spread of Jainism in Tamilnadu”, Workshop on “Bilingual Discourse and Cross-cultural Fertilisation: Sanskrit and Tamil in Mediaeval India”, Wolfson College, Cambridge, May 22-23, 2009.

③ 高橋孝信、「南インドの宗教事情」、北海道印度哲学仏教学会平成20年度例会、北海道大学人文社会総合教育研究棟517、2008.5.17.

[図書](計1件)

① 高橋孝信、『エトウトハイ 古代タミルの恋と戦いの詩』(訳)、平凡社・東洋文庫765、2007年、345頁。

[産業財産権]

○出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：

発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/indlit/tamil/index.html>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

高橋 孝信 (TAKAHASHI TAKANOBU)

東京大学・大学院人文社会系研究科・教授

研究者番号：10236292

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：